

2025年度 学校自己評価

学校法人浅ノ川学園 金沢看護専門学校

1. 学校の教育目標

本校は、教育基本法及び学校教育法並びに保健師助産師看護師法の本旨に則り、看護師としての必要な知識・技術及び態度を習得させ、社会に貢献し得る有能な人材を育成するための専門教育を行うことを目的としている。

2. 2025年度に定めた重点的に取り組むべき目標や計画

【看護学科の目標】

① 教育の充実

- ・基礎学力を定着させ、学習への意欲を引き出す。
- ・成績不良や素行不良者に対して、早期から担任、教務主任で関り、生活態度や勉強方法を把握し、学生にあった勉強方法を共に考え実践し、留年生0を目指す。

② 学生生活への支援

- ・カウンセラーによる学生の悩みやメンタル面の相談を行い、継続的に学生を支援する。
- ・学生の意見・要望をくみ上げる「学生意見箱」より、学生のニーズを把握し、学生支援を図る。

③ 国家試験対策

- ・毎年安定した高い合格率を維持するため、国家試験対策委員会を中心に対策に取り組み国家試験合格100%を目指す。

④ 進路支援（就職・進学）

- ・学生の適性を考慮し、就職・進学先の選択に関わり、就職・進学率100%を目指す。
- ・本校の設立趣旨に根差し、浅ノ川グループの看護師確保が図られるよう終章指導に努める。浅ノ川グループ就職率60%以上を目指す。

⑤ 教育研究等備品及び施設・設備の整備

⑥ 学生募集活動

- ・高校訪問、進路ガイダンス参加
- ・オープンキャンパス年3回開催
- ・ホームページの情報量増加やSNS等を活用し、効果的なPRを図っていく。

3. 評価項目の達成状況及び取り組み目標や計画について

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切... 4、ほぼ適切... 3、 やや不適切... 2、不適切... 1			
・理念・目的・育成人材像は定められているか	4	3	2	1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1
・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者に周知されているか	4	3	2	1
・教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

① 現状と課題

- ・国家試験や就職についての指導方法
- ・就職先が求める人材の育成方法

② 今後の改善方策

- ・卒業生体験談、就職ガイダンスの有効活用
- ・実習施設へ教育理念・目的・育成人材像を説明し理解を得、実習についての情報共有を行う。

(2) 学校運営

評価項目	適切... 4、ほぼ適切... 3、 やや不適切... 2、不適切... 1			
・目的に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
・事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1
・人事、給与に関する制度は整備されているか	4	3	2	1
・教務、財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4	3	2	1
・教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1

① 現状と課題

- ・学習支援システムを始めとしたデジタル教育について、2026年度から電子教科書などを導入するための環境を整備し、体制を構築した。
- ・DX推進に必要な専門的知識を有する人材が不足しており、これが情報システムの効率化を妨げる一因となっている。

② 今後の改善方策

- ・外部の専門家やITベンダーとの連携によるシステム整備・支援体制の構築
- ・教職員へのDXに関するリテラシー向上研修の実施
- ・DX推進を担う専任担当者の配置や、ICT教育の強化による人材育成

(3) 教育活動

評価項目	適切... 4、ほぼ適切... 3、 やや不適切... 2、不適切... 1			
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	③	2	1
・関連分野の関連施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置付けられているか	4	③	2	1
・授業評価の実施・評価の体制はあるか	4	③	2	1
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	①
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

① 現状と課題

- ・国家試験合格に向けての学生の意識向上

② 今後の改善方策

- ・低学年次から国家試験を見据えたキャリア支援や動機づけの機会を設ける
- ・国家試験合格者や卒業生の体験談を共有し、成功イメージを持たせる
- ・教員による個別面談・学習計画のサポートを強化
- ・評価結果を教育内容に反映させる PDCA サイクルの構築

(4) 学修成果

評価項目	適切... 4、ほぼ適切... 3、 やや不適切... 2、不適切... 1			
・就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
・資格取得率の向上が図られているか	4	3	②	1
・退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

①現状と課題

(卒業後のフォロー体制の構築)

卒業生や在校生の社会的な活躍や評価について、関連施設管理者会議や実習調整時に情報を収集しているが分析する体制が不十分なため教育活動の改善に十分に活用されていない状況

②今後の改善方策

- ・卒業生との継続的なつながりを保つための同窓会組織の再活性化や情報発信ツール（SNS・メール等）の活用
- ・卒業生・現場指導者による在校生向け講話や座談会の開催により、双方にとっての気づきを教育に還元
- ・キャリア支援部門と教員の連携強化によるキャリア追跡調査の体系化。集めたデータをもとに、カリキュラムや実習指導内容の見直しを行う教育改善サイクルの確立

(5) 学生支援

評価項目	適切... 4、ほぼ適切... 3、 やや不適切... 2、不適切... 1			
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生相談に関する体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	②	1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
・保護者と適切に連携しているか	4	③	2	1
・卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	②	1

① 現状と課題

- ・課外活動に対す支援体制は整備されていないが、学生からの意見聴収を実施し、必要であれば支援や補助の体制を整える

- ・キャリア教育に関する系統的な取り組みが不足しており、学生が将来の職業像や進路について具体的に考える機会が十分に提供されていない。そのため、学習意欲や目標意識の醸成につながりにくい状況

① 今後の改善方策

- ・看護管理の講義の中でキャリア形成について考える時間を設け、5年後10年後の自分を想像しそのために必要なことをワークする。
- ・学生の声や進路希望をもとに、学内外のリソースとの連携を強化

(6) 教育環境

評価項目	適切... 4、ほぼ適切... 3、 やや不適切... 2、不適切... 1			
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

① 現状と課題

- ・正規教育課程の履修に加えての課外活動は困難である。
- ・施設・設備については、充実した教育環境の提供を行っている。
- ・防災に関する意識や状況に応じた適切な対応を取ることができている。

② 今後の改善方策

- ・課外活動はスケジュール的に難しいが、就職に向けて浅ノ川グループでのインターンシップの推進を図る。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切... 4、ほぼ適切... 3、 やや不適切... 2、不適切... 1			
・学生募集活動は適正に行われているか	4	3	2	1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	3	2	1
・学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

① 現状と課題

- ・学生の安定的な確保は学校運営の根幹を支える最重要課題である。しかしながら、18歳人口の減少、看護系大学の増加など、外部環境は年々厳しさを増している。特に高校新卒者を主な対象とした募集では限界があり、今後は社会人や再進学希望者など多様な層の受け入れ体制の構築が不可欠である。
- ・高校生の進路選択は多様化しており、看護専門学校を第一志望とする割合が減少している。高等学校との連携強化、出前講座・学校説明会の充実、SNSや動画等を活用した広報などにより、早期接触と関係構築を図る必要がある。

- ・学納金については、教育内容、学生および保護者の負担感等考慮し、他校の状況や経済状況から見ても、総合的に見て妥当性を判断している。

② 今後の改善方策

- ・高校ガイダンスの積極的な参加
- ・社会人に向けてのアピール方法の検討
- ・募集要項等を県外高等学校へも配付

(8) 財務

評価項目	適切... 4、ほぼ適切... 3、 やや不適切... 2、不適切... 1			
・中長期的に学校の財務基盤は安定している	4	③	2	1
・予算・収支計画書は有効かつ妥当なものとなっているか	4	③	2	1
・財務について会計監査が適切に行われているか	④	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

① 現状と課題

財務諸表はホームページに公開しており、学校の財政基盤は安定している。事業年度開始にあたって教育機器・教材の購入を年間予算に計上し、計画的・優先的に購入し教育活動が遂行できるようになっている。適正に執行管理しており、会計監査が行われている。

今後も学生の確保を図り、継続して中期的な財政基盤の安定に努めていくことが課題である。

② 今後の改善方策

今後も安定した学生確保による収入の維持を図るとともに、計画的な予算編成と適正な執行管理、経費の効率化に努め、中長期的な財政基盤の安定・強化を図っていく。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切... 4、ほぼ適切... 3、 やや不適切... 2、不適切... 1			
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適切な運営がなされているか	④	3	2	1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	③	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	③	2	1
・自己評価結果を公表しているか	④	3	2	1

① 現状と課題

法令遵守は、法人全体で取り組まれている。具体的には保健師助産師看護師法指定規則および私立専修学校設置基準に遵守している。毎年、①学校基本調査②保健師助産師看護師法施行令第14条に基づく報告③専修学校実態調査での報告を行っている。

個人情報保護に関しては法人全体の規定を設けており、教職員及び外部講師、学生が遵守すべき事項が定められている。臨地実習における学生の個人情報保護については、SNSの取り扱いも含

め指導を徹底している。

② 今後の改善方策

看護師の守秘義務という基本姿勢を指導し SNS 投稿への判断基準の認識を持たせる。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切... 4、ほぼ適切... 3、 やや不適切... 2、不適切... 1			
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	②	1
・生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	②	1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託を積極的に実施しているか	4	3	②	1

① 現状と課題

本校の学生が実習先や地域の施設等で開催されるイベントにボランティアとして参加する機会があるが、現在は学生個人の自主性に委ねられている場合が多く、学校としての支援体制や評価の枠組みが明確ではない。

② 今後の改善方策

- ・ボランティア関連の案内を適宜実施

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

石川県内に限らず、富山県の高等学校に本校の特色を知っていただくため、学校訪問や学校紹介に繋がるイベント等に参加した。

模擬試験の活用、内・外部講師による国試対策講座、学習状況の把握をし、必要に応じて個別にアドバイスやサポート行うことなどの国家試験対策を実施した。

教員の教育力向上につながる研修へ積極的に参加し、資料の共有、教務会議で報告するなどし、教員全体の教育力 向上に努めた。しかし、研修等への参加回数は少なかった。

2024 年度の重点目標である①入学定員の確保、②国家試験合格率の向上、③教員の教育力向上については、概ね計画的な取り組みが実施され、一定の成果が得られた目標もあった。

入学者確保に向けては、石川県内外への広報活動を強化し、学校の魅力発信に努めた。国家試験対策では、模擬試験や外部講師による講座、個別支援を通じて学習支援体制を整備。教員研修においては知見の共有体制が構築されたが、参加機会の拡充が今後の課題である。

今後は、各取り組みの実効性をさらに高め、PDCA サイクルを意識した継続的な改善が求められる。